

中國出土資料學會
会員各位

下記の通り、本年度第2回大会を開催いたしますので、ふるってご参加いただきますよう、お願いいたします。

2021年10月27日

中國出土資料學會
会長 宮本 徹

中國出土資料學會
2021年度第2回大会

日 時：2021年12月4日（土）
研究報告 13:00～17:00
※ 大会終了後に総会を開催します

報告Ⅰ 崎川 隆（吉林大学考古学院古籍研究所教授）

発表題目：青銅器銘文重合辨偽法の理論と実践

発表概要：近年、中国における考古学的発掘調査の進展にともない、詳細な出土状況を知りうる殷周青銅器銘文資料の数量は著しく増加している。殷周青銅器銘文の研究が、こうした科学的出土品を中心に行われるべきであることは言うまでもない。しかし、その一方で、一千年以上もの歳月をかけて蓄積されてきた膨大な伝世資料が、いまだに殷周金文資料全体の約半数を占めているのもまた動かしがたい事実であり、そうした膨大な資料を一概に無視するのは、やはり現実的な研究態度であるとは言えない。もちろん、伝世資料の中には、真偽の定かでない資料が多く含まれており、たとえ故意の偽造でなくとも、伝世の過程で補修・改変を被っている可能性も十分に考えられる。従って、もしこれらの資料を研究に用いようとするならば、綿密な史料批判がなされなければならない。従来の殷周青銅器銘文研究においても、辨偽や史料批判は行われてきたが、その方法をみると、依然として個々の研究者の経験や直感に頼るものが多く、客観的な基準と方法を具え、反証可能性をもち、かつ汎用性の高い、より“科学的”な真偽判定の方法論は、いまだ確立されていないのが現状である。

本発表では、近年筆者が提唱している新たな真偽判定法である“銘文重合法”の基本原則とその実践例を紹介し、その有効性を明らかにすることによって、以上の如き研究の現状を打開するための糸口を探りたい。

報告Ⅱ 上野 祥史（国立歴史民俗博物館・准教授／総合研究大学院大学・准教授）

発表題目：漢墓に副葬した「情報伝達」の所作

発表概要：漢代は、文字の利用が社会に普及した時代であり、出土する膨大な数の簡牘がそれを象徴している。文字利用や情報伝達の実態は、情報の内容や表現の体裁・形式あるいは伝達方式を中心に解明が進んでいる。しかし、「文字を書く」「情報を伝送する」という所作・行為が、人と物とのかかわりのなかで議論されることは少ない。出土した簡牘や印章に対して、文書の内容や社会秩序や階層などに

眼は向くが、簡牘や印章を使う具体的な所作・行為への注目は少ない。漢代の墓では被葬者の生前の活動空間を再現するため、出土位置を検討することで、日々の所作・行動のなかに組込まれた刀筆や印章、簡牘が見出せる。文字使用に関連した副葬品の空間分析により、漢代における「文字を記す」「情報を伝達する」の復元とその社会的な意義を展望する。本報告は、文字利用や情報伝達をハードウェアの側面から検討しようと試みるものである。

報告Ⅲ 鷹取 祐司（立命館大学文学部教授）

発表題目：秦漢時代の「庶人」について——身分標識不所持説の検証を中心に——

発表概要： 秦漢時代の史料に見える「庶人」という語は、従来、一般の人々を広く指す「庶民」と同じ意味と理解されていたが、張家山漢簡・二年律令の田宅給付規定（310～303簡、314～316簡）では「庶人」が爵位や士伍・司寇・隱官と並んで現れていたことから、「庶人」は特定の身分を指す呼称であり、徭役・兵役・仕官に関わる律令条文に「庶人」が現れないことから、徭役・兵役・仕官から排除された存在と理解された。さらに、「免為庶人」という記載から、「庶人」はそれまで有していた奴婢・刑名・爵称などの身分標識を「免」ぜられてそれを持たない者であるとの説も示されるに至った。しかしながら、「隸臣捕道徼外來為間者一人、免為司寇」（岳麓書院藏秦簡〔伍〕176）では、「免」ぜられた隸臣になっている「司寇」は所謂身分標識である。本報告では、この身分標識不所持説の妥当性を検証した上で、「庶人」が特定身分であるという理解についても改めて検証する。

- ※ 今大会はzoomを利用したオンラインでの開催となります
参加希望者は下のリンクから事前登録をお願いいたします
登録受付期間：11月27日（土）まで



https://docs.google.com/forms/d/1z7XLb7jIzpnIPcZhjPZD7dIkkt56GIencd_HFQcdkc0/edit

- ※ 参加申込者には、11月29日（月）以降に招待リンクと発表資料閲覧用のパスワードを事務局から送付いたします
- ※ 参加費無料、非会員の来聴を歓迎します

連絡先（大会委員長）

〒270-8555

千葉県松戸市新松戸3-2-1 流通経済大学法学部

富田 美智江

E-mail : tomita-michie@rku.ac.jp